2級損害保険登録鑑定人 簿記会計 試験問題用紙

(2023年7月)

注 意 事 項

- 1. 試験責任者の指示があるまで開かないでください。
- 2. 解答用紙は試験問題用紙の最初の頁に入っています。試験開始の合図があったら解答用紙があることを確認 してください。解答用紙がない場合は直ちに申し出てください。
- 3. 解答用紙には<u>受験番号、氏名、受験地を必ず記入</u>してください。 受験番号は6桁の数字を左の欄から順に正確に記入し、その数字と同じ箇所をマークしてください。<u>記入漏れや間違った内容をマーク・記入すると採点ができませんので、解答した内容はすべて無効(得点なし)となります。</u>また、解答を解答用紙以外に記入しても無効となります。
- 4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出してください。問題用紙は持ち帰って結構です。
- 5. 解答は、解答用紙の該当する問題の解答欄に楷書で記入してください。
- 6. HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシルを使用してください。HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシル以外(万年筆、ボールペン、サインペン、色鉛筆等)は使用不可です。
- 7. 訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムで完全に消してください。消し方が不十分な場合には解答が正 しく読み取れないことがあります。修正液等、プラスチック製消しゴム以外は使用不可です。
- 8. 解答用紙の読み取りは機械処理をしますので、折り曲げたり、汚したり、記入欄以外の余白および裏面には何も記入しないでください。
- 9. カンニング等の不正行為があったと認められた場合は、当該試験は不合格とし、原則としてその場で試験の中止と退室を指示され、それ以降の受験はできなくなります。
- 10. トイレや急な体調不良等を含め、一旦退席された場合の再入室はできませんので、ご注意ください。
- 11. 試験時間は正味50分です。
- 12. 試験問題の内容に関する質問は、いっさい受け付けません。
- 13. 試験時間中の私語は禁止します。
- 14. 資料等の使用はいっさい認められませんので、筆記用具、電卓以外はすべてしまってください。
- 15. 試験時間中は、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の通信機能・記憶機能を有する機器の使用は、時計として使用することを含めていっさい認められませんので、あらかじめ電源を切っておいてください。
- 16. 「受験票」および「写真が貼付されている公的本人確認書類」は机の上の見やすいところに置いてください。
- 17. 問題用紙、解答用紙の印刷に乱丁・落丁があれば申し出てください。

一般社団法人 日本損害保険協会

【問題1】

次の1~5の取引の仕訳を解答用紙に記入してください。

なお、勘定科目は下の勘定科目表から最も適当なものを選び、必要に応じて何 度使用しても構いません。

- 1. さきに、A商店から商品代金として受け取っていた同店振り出し、当店宛の約束手形¥400,000 について、支払期日の延期の申し出があり、これを承諾した。よって、支払期日の延期に伴う利息¥3,000 を加えた新しい約束手形を受け取った。
- 2. B商事株式会社は、次の条件で社債を発行し、全額の払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、この社債の発行に要した諸費用¥200,000 は小切手を振り出して支払った。

- 3. C商事株式会は、決算において当期純損失¥1,000,000を計上した。
- 4. 商品¥300,000 を仕入れ、代金は得意先D商店振り出し、当店宛の約束手形¥300,000 を裏書譲渡した。なお、保証債務の時価は手形額面金額の1%とする。
- 5. 従業員が出張先から帰店したので旅費の精算を行い、現金¥2,000 を受け取った。この従業員には、出張に際して旅費の概算額として現金¥100,000 を渡していた。

《勘定科目表》

現 当 座預 受 取 手 形 金 金 手形貸付金 売 掛 金 前 払 金 不 渡 手 形 価 証 払 有 券 仮 金 払 手 減価償却累計額 支 備 品 形 買 掛 金 未 払 金 前 受 金 仮 受 金 保 証債 務 社 債 資本準備金 資 本 利益準備金 金 別途積立金 繰越利益剰余金 売 H. 受 取 利 費 息 仕 入 旅 保証債務費用 社債発行費 益 損

【問題2】

E商店(個人企業 決算年1回 12月31日)の本店と支店に関する下記の資料によって、次の①~④の金額を計算して解答用紙に記入してください。ただし、 E商店の支店会計は独立しているものとします。

- ① 12月30日における支店の現金勘定残高(資料 ア の金額)
- ② 12月31日における支店の買掛金勘定残高
- ③ 12月31日における支店勘定残高と本店勘定残高の一致額
- ④ E 商店全体の当期の売上原価

資 料

(1) 12月30日における元帳勘定残高(一部)

勘定科目		<u>本 店</u>	<u>支 店</u>			
現	金	700,000	¥ ア			
繰越商品		100,000	50,000			
買 掛	金	500,000	400,000			
支	店	330,000 (借方)	_			
本	店	_	300,000 (貸方)			
仕	入	800,000	500,000			

- (2) 12月31日の取引
 - i 本店は支店の買掛金¥200,000 を現金で支払い、支店はその報告を受けた。 ii 支店は本店から送られた商品¥30,000 (原価)を受け取った。なお、本店は この商品を12月29日に発送しており、その会計処理は済んでいる。
- (3) 12月31日におけるE商店の本支店合併の現金勘定残高 ¥600,000
- (4) 12月31日における本支店別期末商品棚卸高本店 ¥100,000 支店 ¥80,000(資料(2) ii の商品を含む)

【問題3】

次の精算表の①~⑩にあてはまる金額を解答用紙に記入してください。

精 算 表

令和○年1月1日~令和○年12月31日

単位:円

	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
勘定科目	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	190,000							
当座預金	670,000						6	
受 取 手 形	200,000							
売 掛 金	250,000							
有 価 証 券	1,800,000							
繰 越 商 品	400,000							
備品	3,000,000							
支 払 手 形		140,000						
買 掛 金		220,000						
借 入 金		800,000						
貸倒引当金		5,000						
減価償却累計額		1,800,000						7
資 本 金		3,450,000						8
引 出 金	60,000							
売 上		5,400,000						
受取手数料		120,000				1		
仕 入	3,600,000				2			
給料	1,200,000							
支 払 家 賃	240,000							
租 税 公 課	170,000							
保 険 料	60,000							
支 払 利 息	15,000				3			
雑費	80,000							
	11,935,000	11,935,000						
貸倒引当金繰入					4			
減価償却費								
有価証券評価損					5			
()手数料								
()保険料							9	
()利 息								
当期純損失							10	

く付記事項>

- 1. 得意先 F 商店に対する売掛金 50,000 円が、当店の当座預金口座に振り込まれていたが、未記帳であった。
- 2. G商店に商品 100,000 円を売り上げ、代金として同店振り出しの約束手形を 受け取っていたが、未記帳であった。

く決算整理事項>

- 1. 受取手形および売掛金の期末残高に対して2%の貸倒れを見積る。
- 2. 有価証券は 1 株 58,000 円に評価替えする。なお、この有価証券は H 商事株 式会社発行の株式であり、当店は 30 株を保有している。
- 3. 期末商品棚卸高は 500,000 円であった。 なお、売上原価は「仕入」の行で計算すること。
- 4. 備品の減価償却を次のとおり行い、間接法によって記帳する。

取得原価: 3,000,000 円 償却方法: 定額法 残存価額: 0(零) 耐用年数: 5年

- 5. 翌年 6 月末に手数料 240,000 円を受け取ることになっている。これは本年 11 月 1 日からの 8 か月分である。適正額を見越し計上する。
- 6. 保険料のうち 30,000 円は、本年 9 月 1 日からの半年分を支払ったものである。 適正額を繰り延べ計上する。
- 7. 翌年 3 月末に利息 4,000 円を支払うことになっている。これは本年 12 月 1 日からの 4 か月分である。適正額を見越し計上する。
- 8. 引出金勘定残高¥60,000 は整理する。

< M E M O >